

子ども学の

ひろば

お便り

POST

◆私の「カルチャー・いんふお」◆

「女優たちの終わらない夏・終われない夏」(NHK BS1 スパッと! 2021年夏再放送)から。

高田敏江、日色ともゑ、渡辺美佐子、山口果林ら十数人は戦争の記憶を風化させまいと「夏の会」を結成し、2008年から12年間にわたり朗読劇「夏の雲は忘れない」を聴かせてきました。劇は広島・長崎で被爆した子どもや母親の手記を元に毎年構成され、女優たちはすべて手弁当で毎夏の公演を運営しました。最後となった2019年も全国で29公演を開催し多くの聴衆を集め、戦後生まれの若い演出家、城田美紀は体験したことのない「被爆する」夢を見るほどでした。子どもであった戦争時代に「航空機燃料にするため松の木の樹脂を集めた」という川口敦子。当時東京で心を寄せた龍男君が疎開先の広島で被爆したと30年後に知り、渡辺が集め始めた子どもたちの言葉、「お母ちゃんの骨は口に入れるとさみしい味がする」。番組は女優たちの語りを織り交ぜながら、子どもや学生も朗読に参加し、会の活動の原点である「平和の願いを次の世代へバトンタッチ」する様子を描きます。「よなかにおとうちゃんが、いもをくたいといいました。おばあちゃんは、はいといって、いもをにました。『おとうちゃん、いもができました』といっておとうちゃんをみると、もうこえができません。ぼくがおとうちゃんのからだにさわってみると、つめたくなって、もうしんでいました。おとうちゃん、おかあちゃん、さようなら。」佐藤朋之作(当時4歳、小学4年)。渡辺は読み手である現代の少年に語ります。佐藤君はおとうちゃんの「いもをくたい」の言葉を聞いて、もしかしてお父さんが元気になってきたかもしれないと思っていただろうと。参考:『夏の雲は忘れない』(夏の会編 2020年 大月書店) (AK)

◆研究論文を募集します◆

ピアレビュー(査読)の上、掲載します。

本誌の巻末、横書き部分の「探究」ページに掲載する論文を募集します。

【テーマ】子ども、保育、幼児教育に関するもの

【文字数等】12,500~13,000字程度(日本語)。

(写真・図表、文献、注を含む)

本文はワード原稿で作成してください。編集上適宜対応しますが、投稿予定の方は下記のアドレスまでメールでご相談ください。

【締め切り】随時募集します。

【送付先】本誌編集委員会

Mail : youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

◆年間購読継続手続きのお願い◆

いつもご愛読くださり、ありがとうございます。

次号春号からの年間購読を引き続きご希望の方は、更新手続きが必要となります。フレール館のホームページに入り、オンラインショップ「つばめのおうち」のバナーをクリックし、その後、「定期購読」⇒「幼児の教育」の表紙絵をクリックします。

定期購読のサイクルは冬号で一区切りになります。ご不明の点などございましたら、youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp までお問い合わせください。

おかげさまで今年も無事に4号をお届けすることができました。今後ともどうぞお引き立てくださいますようお願い申し上げます。

(編集委員会)